

日本神経精神薬理学会 第 55 回理事会議事録

日 時： 2013 年 4 月 13 日（土） 14：00～15：00

場 所： JA ビル貸会議室 302 号室

（〒100-6869 東京都千代田区大手町 1-3-1 TEL：03-6265-1073）

出席者： 山脇成人 理事長、仲田 義啓大会長大熊誠太郎、西川 徹、南 雅文、荻田喜代一、
尾崎紀夫、久住一郎、須原哲也、加藤忠史、鈴木 勉、武田弘志、橋本 均、吉岡充弘 各理事
齋藤利和、馬場明道 各監事
池田和隆国際学術委員長、橋本亮太広報委員長

欠席者： 神庭重信、中村 純、橋本謙二各理事

岩田仲生次期会長、石郷岡純 TMSC 委員長、山田清文日薬連 WG 委員長

冒頭に、前回（第 54 回）理事会議事録（案）および持ち回り理事会議決事項一覧が提出され、異議なく承認された。

I. 報告事項

1. 第 43 回年会（第 23 回日本臨床精神神経薬理学会との合同開催）準備状況報告（仲田大会長）

仲田会長から以下の通り年会準備状況について報告がなされた。

- ・本年は、初日(24日)はCNP主体、二日目(25日)はNP・CNP合同、三日目(26日)はNP主体のプログラムとなった。
- ・26日には、TMSC委員会企画のシンポジウムやプレナリーセッションを設け、製薬会社にNPの活動をアピールする予定である。

2. 第 44 回年会（第 24 回日本臨床精神神経薬理学会との合同開催）準備状況報告（岩田次期大会長）

岩田次期会長欠席のため、尾崎理事（次期CNP大会長）から開催概要が報告された。

第 44 回日本神経精神薬理学会・第 24 回日本臨床精神神経薬理学会合同年会

日 程：2014 年 11 月 20 日（木）～22 日（土）

会 場：名古屋国際会議場

〒456-0036 名古屋市熱田区熱田西町 1-1

- ・近日中にプログラム委員の依頼をする予定である

3. 各委員会報告

a. 総務委員会（橋本均委員長）

1) 以下の通り会員報告（2012 年 12 月 1 日から 2013 年 3 月 31 日）がなされた。

会員数：1,151 名（2013 年 3 月 31 日現在）

内 訳：名誉会員 26 名、功労会員 20 名、評議員 222 名

正会員 819 名、学生会員 47 名、賛助会員 17 社

新入会： 7 名

退 会：本人申出 34 名

賛助会員 2 社

逝 去 2 名

物 故 者 一般会員 窪田 孝 先生 2012 年 11 月ご逝去

一般会員 井上 悦宏 先生 2013 年 1 月ご逝去

b. 広報委員会（橋本亮太委員長）

資料に基づき、報告がなされた。

広報委員会での今後の活動方針（前委員会の目標を踏まえて作成）

1) 学会ホームページの更新、改訂について

①前広報委員会の努力により、より見やすいホームページになった。掲載情報のブラッシュアップを進め、アクセス数増加に努める。

②日病薬連携ワーキンググループと連携し、専門薬剤師向け情報（年会での研修講座、ポイント数などの情報）の掲載をする。

③その他の委員会との連携を行い、必要な情報を掲載していく予定。

2) 会員へのメール配信

・海外の学会レポート（ACNP など）、海外学会の発表や学術賞受賞者のレポートを新規にメール配信し、ホームページにも掲載する。JSNP 関連の受賞者のレポートについては、学術賞選考委員会と連携する。

・編集委員会と連携し、雑誌にも掲載を行う。

3) 年会企画 Meet the experts の継続

司会：鈴木雄太郎（新潟大学精神科）永井拓（名古屋大学薬剤部）
エキスパート

臨床 下田和孝（獨協医科大学精神科）

加藤正樹（関西医科大学精神科）

基礎 米田幸雄（金沢大学薬物学）

池田和隆（東京都医学総合研究所）

昨年開催し、非常に好評であった。今年も開催準備を進めている。

4) 過去に行った JAPAN Night のような企画を必要に応じて行う。

5) 委員の役割分担を以下の通り決定した。

①池田和隆委員：HP の改訂担当

②稲田健委員：会員へのメール配信担当

③梶井靖委員：Meet the experts 担当

④岸本泰士郎委員：会員へのメール配信担当

⑤中川貴之委員：会員へのメール配信担当

⑥新田淳美委員：専門薬剤師向け情報掲載担当（日病薬連携ワーキンググループと連携）

⑦橋本均委員：担当理事

c. 編集委員会（南委員長）

1. 刊行状況、依頼状況、査読状況

1) 刊行状況

32 巻（2012 年）：総説 24, MR7, 原著 3, 短報 1, AsCNP 優秀賞, 追悼文, 新名誉会員紹介を掲載。

33 巻（2013 年）：MR3, 原著 2 と CINP 優秀賞, 学会レポート, 追悼文を 1~2 号に掲載。

3 号からは、学会シンポジウムを掲載していく予定である。

2) 依頼状況

昨年ご寄稿いただいた論文は 2 編である（学会シンポジウムを除く）。

3) 投稿状況

2012 年の投稿は総説 1, MR2, 原著 4（うち英文 1）の計 7 編。

2013 年の投稿は原著 2（うち英文 1）の 2 編（3/25 現在）。

2. 執筆依頼・企画

例年どおり、2012 年の学会シンポジウムの依頼原稿を掲載していく。

3. 投稿形態の改定を検討中。今年中にはメールでの投稿原稿の受付を開始したい。

4. 今後の機関誌の形態について、以下の意見が出された。

・予算超過の問題、ページ数が増えると財政を圧迫する。冊子版を変える、電子版とするかなどの将来的な検討が必要であるが、編集委員会での検討でなく、理事会等の上部検討機関での検討をお願いしたい。

・オンラインジャーナルとするとどれくらいの経費となるか、資料を収集する。具体的には J-STAGE での掲載方法他、PDF 版にして、学会ホームページに掲載する等。

・学会誌の位置づけをどうするか。コミュニケーションの場とするのか、純粋に論文誌として進めていくのか。

・理事長直轄の WG を設置し検討していくなど今後の検討方法も考える。

・例としては、CINP のジャーナルをオフィシャルジャーナルとして、現在の機関誌は広報誌のような形とする。

d. 財務委員会（大熊委員長）

協議事項で報告掲載

e. 国際学術委員会（池田委員長）

資料に基づき、報告がなされた。

1) CINP

(1)2013 年 4 月イスラエルでのセマティック・ミーティングの派遣について

CINP より AsCNP へ、セッションの企画（座長とスピーカーの選定）の要請があった。AsCNP は隔年の大会の予算しかないことから、事務局運営費などとして当面 JSNP から理事会決定を経て、必要資金を拠出することが確認されているので、その決定に基づき、総務委員長及び財務委員長の了解を経て JSNP が費用負担する。当会からは山脇理事長が座長、加藤忠史理事がスピーカーとして参加する。

(2)2013 年 10 月クアラルンプールでのアディクション特別大会について

日本からのプログラム委員として、山脇理事長、齋藤監事、池田国際学術委員長が指名され、プログラムの作成を進めている。日本依存神経精神科学会とも連携し、シンポジウムや基調講演での日本人の座長・スピーカーが 13 名となる見込みである。

日本依存神経精神科学会との共催シンポジウムを予定しているが、開催にあたっては JSNP として開催費用約 30 万円程度の負担が生ずる可能性があり、手続きについては、財務委員長と協議し、理事会としては参加の方針を承認する。

(3)2013 年 10 月 JSNP 沖縄大会で Phillips CINP 理事長が特別講演予定。

2) AsCNP

(1)Young Hoon Kim 前 AsCNP 理事長より山脇 JSNP 理事長を AsCNP 名誉理事長とすることが提案された。また、役員の変更があった。

(2)第 3 回 AsCNP 大会（北京）

①推薦希望があり、日本から数名の研究者を推薦し、国際組織委員とサイエンス委員に日本から以下の研究者が選出された。

International Organizing Committee:

Shigeto Yamawaki (Hiroshima University)

Shigenobu Kanba (Kyushu University)

Toshikazu Saito (Sapporo Medical University)

Jun Ishigooka (Tokyo Women's University)

Norio Ozaki (Nagoya University)

Science Committee:

Tetsuro Ohmori (Tokushima University)

Hitoshi Hashimoto (Osaka University)

Nakao Iwata (Fujita Health University)

Kazutaka Ikeda (Tokyo Metro Inst Med Sci)

②AsCNP 大会事務局より 4つの招聘シンポジウムの内の 1つを日本で企画するように要請があり、尾崎理事が中心となり提案することとなった。

③前回の第 2 回ソウル大会の際は、若手研究者を対象とした優秀発表賞を JSNP で設定し、20 名が受賞した。委員会としての要望を定め、理事長、学術賞選考委員会および財務委員会と調整する。(後日、今回も企画することが決定され、ホームページで公示した。)

④日本がアジアのリーダーとしての役割を果たすためにセントラルオフィスを日本に設置することとしたが、実質的な機能をしていない。今後のあり方について検討する必要がある。

3) ACNP

ACNP から JSNP への ACNP 年会への参加枠供与は、2013 年、2014 年の 2 年限りで 2 名の参加枠となった。

JSNP 幹部はできるだけ ACNP の会員資格を得られるよう活動していただきたい。なお、現在の JSNP 幹部では山脇理事長のみが会員(Fellow)となっている。

尚、申請カテゴリーの目安として、regular member (男性) の平均が 93.7 publications, H-index 30、associate member (男性) の平均が 37.8 publications, H-index 16 となる。

4) ECNP

(1)ECNP が中心となって進めている、中枢薬の命名・分類の新たな方法の提案について、具体的な協力要請 (3 つの薬剤の資料案作成) が AsCNP へ届き、山脇 JSNP 理事長が担当することとなった。3 つの薬剤が依存治療薬であったので、日本依存神経精神科学会(JSND)にも協力要請した。

(2)2013 年 10 月 JSNP 沖縄大会で Zohar 理事長が特別講演予定。

5) WFSBP

第 11 回 WFSBP が京都で 2013 年 6 月に開催される。当学会へ後援の依頼があり、後援依頼を承認した。

f. 学術賞選考委員会(吉岡理事長)

資料に基づき、報告がされた。

1) 学術奨励賞は 4 名の応募 (全て基礎系)。

2) 優秀論文賞対象論文は 3 篇。

昨年の手続きに基づき、選考委員会を開催し、次回理事会で報告する。

g. 長期計画委員会(山脇理事長)

前期委員会において、国際化対応とトランスレーショナルリサーチ推進の 2 本柱を中心に、学会活動が進められてきたこと今期も引き続き、この 2 本柱をサポートしていく方針であることが報告された。

h. 研究推進委員会(尾崎理事)

尾崎委員長から、脳科学連合関係の補足報告がなされた。

日本学術会議での大型マスタープランの募集に対して、脳科学連合として提案することとなり、脳科学連合運営委員会からの草案に対して、JSNP として改定案を提示した。

i. 倫理委員会(利益相反)(中村理事が欠席のため山脇理事長)

自己申告書類において、提出された書類の取り扱いについて他学会でも議論されている。当会としてはまずは、規定にそって、手続きをすすめ、理事長および委員長が事務局へ指示し、厳重に保管することになった。

j. トランスショナル・メディカルサイエンス委員会（石郷岡委員長欠席のため山協理事長）

山協理事長から資料に基づき、報告がなされた。

いくつかの企業からも委員長あてに要望が届いている。内外から注目されているので、当会の重要な活動となるよう進めていく。

また、委員長から提言のあった、活動の方針について理事会として審議し、承認した。

k. 日薬連携ワーキンググループ委員会（山田委員長欠席のため山協理事長）

山協理事長から資料に基づき、報告がなされた。

連携内容について、現在日本病院薬剤師会で調整中である。

4. 日本脳科学関連学会連合（脳科学連合）報告

山協理事長から資料に基づき、以下の報告がなされた。

日本学術会議での大型計画の募集に対して、脳科学連合として提案することとなり、脳科学連合運営委員会からの草案に対して、JSNPとして改定案を提出した。

II. 協議事項

1. 2012年度収支決算報告及び監査報告について

1) 2012年度収支決算について

2012年度収支決算および神経精神薬理振興基金決算について報告がなされ、承認された。

収支計算書、監査報告、振興基金収支計算報告書について異議なく承認された。

2) 2012年度監査報告書について

齋藤監事、馬場監事より監査の結果、収支の記載が適正であると認められていることが報告された。

2. 執行委員会設置の件について

橋本均総務委員長から、資料に基づき執行委員会の設置について協議がなされた。

(1) 本委員会の設置の目的は、継続性をもって、会の運営を担保することが主な目的となる。

このため、理事長の権限が強化されてしまうのではないかと懸念があるが、監事の職務（権限）の明確化や理事会内の組織との位置づけにより、バランスを図る形とする。

①理事長の任期は、次期理事長に選出される時期によっては、最長合計6年となる。（現在は4年）

②執行委員会は、理事会内の執行機関とする。構成メンバーは前理事長、理事長、次期理事長、財務委員長、総務委員長。

以上の方針にて、沖縄大会の総会に向け詰めていくことが確認された。

(2) 今後、次期理事長の選出方法について以下の方針で検討。

①理事選挙方法については、沖縄大会前の理事会で検討する。

②理事の選考、次期理事長の選考については、議論を煮詰めて、次回の理事会で結論を出し、評議員会・総会へ諮る。

尚、初年度については移行措置として、次期理事長を決定しておく必要がある。制度も併せて、フレキシブルに対応を検討していかなければならない。

(3) 規程の一部改正

次期理事長予定者の選出および監事の職務担当事案について検討経過が報告された。

3. NP 沖縄大会への演題応募、参加のプロモーションについて

第43回年会(第23回日本臨床精神神経薬理学会との合同開催)準備状況報告(仲田大会長)にて報告。

4. **2015年大会のCNPとの合同開催について**
 - (1) 4月7日にCNP理事会において、NPとの合同年会についての報告がされた。また、CNP内部で合同年会の有無についてのアンケートを実施し、その結果が報告された。合同大会・単体・隔年開催と様々な方針について議論された。
以上の報告から、2015年は、単独開催することを決定した。
 - (2) 2015年のNP単独開催においては、他の関連学会との合同も検討しながら、柔軟に進めていく。
5. **AsCNP（北京大会への参加）、CINP、ACNPなどの国際対応の検討について**
国際学術委員会（池田委員長）報告に準ずる。
6. **法人化問題について**
次回の審議事項とする。
7. **新評議員の承認の件**
以下の1名が推薦されており、審議の結果、新評議員として評議員会へ推薦することが承認された。（敬省略）
塩田 勝利（自治医科大学精神医学講座）
8. **新入会者希望者承認の件**
2012年12月17日から3月31日までに7名の入会申込者があったことが報告され、全員が承認された。
9. **学生会員更新の件**
全員が承認された。
10. **学術賞選考委員会委員の承認について**
久住 一郎先生、内匠 透先生の2名の追加承認がされた。
11. **その他**
沖縄大会では理事会は開催せず、次回理事会は9～10月に定例理事会として開催することになった。

以上
平成25年4月13日
日本神経精神薬理学会
理事長 山脇 成人